

『〈新板／絵入〉保元物語・平治物語』書誌解題

Bibliographic information of “*Shin-ban E-iri Hougen-Monogatari Heiji-Monogatari*”小井土 守敏¹¹大妻女子大学文学部Moritoshi Koido¹¹Faculty of Language and Literature, Otsuma Women's University

12 Sanban-cho, Chiyoda-ku, Tokyo, Japan 102-8357

キーワード：軍記，流布本，保元物語，平治物語

Key words: War chronicle literature, Popular edition, The Tale of Hōgen, The Tale of Heiji

抄録

『〈新板／絵入〉保元物語・平治物語』の書誌情報を報告する。本書は、『保元物語』『平治物語』諸本の中にあつては、「流布本」と称される伝本であり、そのテキストとしての価値はそれほど高いとは言えない。しかし、最も広く流布し、芸能その他に大きな影響を与えた流布本の享受の様相は、様々な角度から検討されなければならない。本稿は、その基礎資料としての書誌情報を提供するものである。

1. はじめに

本稿では、架蔵の『〈新板／絵入〉保元物語・平治物語』の書誌情報を報告する。本書は、貞享2年(1685)の刊記をもつ整版本であり、『保元物語』『平治物語』諸本の中にあつては、「流布本」と称される伝本である。そのテキストとしての価値はそれほど高いとは言えないが、最も広く流布し、後代の文化・芸能に大きな影響を与えた本文である。こうした流布本の享受の様相は、様々な角度から検討されなければならないと、稿者は考えている。

本稿は、その基礎資料としての書誌情報を提供するものである。

2. 書誌

[外題] 「〈新板／絵入〉保元物語 完」

「〈新板／絵入〉平治物語 完」

※表紙中央に書き題簽。角書きは一重の円で囲まれる。保元物語の題簽は、元のものを利用したらしく、角書きは刷られたものそのまま、それ以外は墨で重ね書きをしている。「完」字は、「〈一二三／四五六〉」を擦り消して書く。平治物語の題簽は、保元物語に書式を模した手書き。

[内題] 「保元物語巻第一（～三）目録」「序」

「平治物語巻第一（～三）目録」

[尾題] 「保元物語巻之終」

「平治物語巻三終」

※各巻末に尾題はない。

[巻冊] 保元物語 3巻1冊

平治物語 3巻1冊

※ともに、3巻3冊を合冊。

[残欠状況] 全

[保存状況] 良好

[体裁] 四つ目、袋綴じ

[表紙] 藍色、後装

[表紙寸法] 縦 25.7cm × 横 18.6cm

[見返し] なし

[料紙] 楮紙

[本文用字] 漢字平仮名交じり文

[一面行数]

目録 14行（保元物語・平治物語ともに）

本文 平治物語巻三を除く各巻は、2丁オモテまで15行、3丁ウラ以降は17行（平治物語巻三は2丁ウラ以降17行）。

その他、保元物語巻三 13オモテ～14ウラ、平治物語巻一 13オモテ～13ウラ、平治物語巻二 16オモテ～16ウラ、平治物語巻三 15オモテ～15ウラが15行。

※平治物語巻三以外の各巻で、巻頭2丁ウ・3

丁オの見開きの挿絵までが 15 行，以降 17 行ということになる。また，その他の 15 行となっている丁は，いずれも挿絵の直前となっている。

[丁数]

保元物語 巻一 20 丁 巻二 25 丁 巻三 22 丁
平治物語 巻一 25 丁 巻二 25 丁 巻三 25 丁
※平治物語巻三の 4 丁の丁表示は「四ノ五」とあり，以降 1 丁ずつずれて最終丁表示は「廿六終」とある。

[柱] 「保元 一 (～三) (丁数)」
「平治 一 (～三) (丁数)」

※保元物語巻三，平治物語巻一～三の最終丁の丁表示は，「廿五終」等とする。

[本文匡郭] 縦 22.0cm×横 17.1cm

[挿絵]

保元物語 16 図

巻一：2ウ・3オ，7オ，10オ，13オ，17オ

巻二：2ウ・3オ，7オ，10オ，14オ，18オ

巻三：2ウ・3オ，7オ，11オ，14オ，17オ，20オ（傍線は見開き）

平治物語 20 図

巻一：2ウ・3オ，7オ，11オ，14オ，18オ，21オ，25オ

巻二：2ウ・3オ，7オ，11オ，14オ，17オ，21オ，24オ

巻三：6ウ，11オ，16オ，20オ，23オ，26オ（傍線は見開き）

※画中には短冊状のものを配し，人名や場面の説明が記されている。絵数については，丁表示を見る限り，欠損はないものと思われる。

[書入・貼紙] なし

[刊記] 「貞享二乙丑年九月吉辰／文台屋／治郎兵衛蔵板」

[蔵書印] 「岡本之印」（印主不明）

[その他] 帙入り

[参考] 挿絵の図柄は以下の通り。

保元物語

- 1 内裏にて近衛天皇即位が行われる。
- 2 崇徳院に意見する頼長。
- 3 義朝，東三条の頼長邸へ捜索に向かう。
- 4 教長，六条堀川の邸にて為義を説得する。

5 白河北殿にて，為朝，夜討ちを献策。

6 攻め寄せる義朝と鎌田。櫓から為義・為朝が応戦。

7 鎌田，義朝に為朝の弓勢の強さを報告する。

8 宇野・望月・諏訪等の奮戦。

9 朝敵の宿所が焼き払われる。

10 教長・成雅等，捕らわれる。

11 弟たちの処刑を命じる義朝と連行された弟たち。

12 波多野からの知らせに，嘆く為義北の方。

13 仁和寺に崇徳院の讃岐配流を告げに来た左少弁資長。

14 師長，父忠実への手紙をしたためる。

15 直島に幽閉された崇徳院。

16 為朝，鬼の子孫が住むという島へ渡る。

平治物語

1 信西，後白河院に巻物三巻を献上する。

2 信頼，姉小路西洞院の信西宿所を襲撃。

3 晒された信西の首。

4 比叡山で，問答を繰り返す信西。

5 光頼卿，束帯姿で参内する。

6 二条帝，頼盛・経盛等に護衛されて六波羅へ遷幸。

7 義朝，義平に源氏勢を記させる。

8 御所となった六波羅。階下に清盛が畏まる。

9 重盛を追いかける義平。

10 自害しようとする郎等を説得する遠元。

11 実盛，西塔の法師たちを欺く。

12 信頼と式部大輔，身ぐるみ剥がれる。

13 義朝，家来たちにいとまを取らせる。

14 義朝，湯殿で襲撃される。

15 頼朝，弥平兵衛宗清に生け捕られる。

16 弥平兵衛宗清，池の禅尼に頼朝助命を願い出る。

17 経宗・惟方，捕らえられる。

18 義経，吉次を伴い奥州へ向かう。

19 義経，兄頼朝の陣へ駆けつける。

20 長田父子，処刑される。

3. 補説

この二作品を，それぞれ別個の書籍としてあらためて見直してみると，『保元物語』の巻末には刊記は見られず，同じ帙に納められた『平治物語』の巻末にのみ，貞享2年（1685）の刊記が刻まれているという事実突き当たる。すなわち，厳密

に言えば、この『保元物語』については、刊記不明ということになる。しかし、本の体裁、版面、挿絵、柱等の共通点からして、やはり同時刊行とみるのが妥当である。むしろ、それぞれに刊記を記すまでもなく、『保元物語』『平治物語』は一続きの作品として享受された、セットで流通していたということが再認識できよう。このことは、『保元物語』『平治物語』の流布本研究を始めるにあたり、まずは確認しておくべきことである。

貞享2年の刊記を有する『平治物語』には、以下の3種が知られる。

- ・安田十兵衛開板
- ・文台屋治郎兵衛蔵板
- ・松樹軒小川新兵衛蔵板

いずれも「貞享二乙丑年九月吉辰」とあるが、原水氏の調査によれば、最初に本書を刊行したのは安田十兵衛である。後にその版が文台屋治郎兵衛に渡り、さらに小川新兵衛に渡ったとされる^[1]。つまり本報告の底本は、貞享2年の刊記を有してはいるが、その年に刷られたわけではない。先行する安田十兵衛版と比較をすると、改変箇所はその刊記の部分のみである^[2]。求版ののち、埋木によって版元を改めているだけで、一面行数に揺れがあるのも、不規則な丁表示が見られるのも、安田十兵衛の版からのものであって、文台屋版からのものではない。

さて、本文の誤謬や記事の出入り等、流布本本文の問題は別の稿に譲るとして、ここでは挿絵の

配置について指摘しておきたい。見てきたように、この版の挿絵は、明らかにその配置場所が意識されている。各巻の巻頭近くに見開きの豪華な挿絵を配し——しかもその挿絵に至るまでは、一面行数も抑えめに、ゆったりとした版面を構成し——、以降は3ないし4丁ごとに挿絵を配していく。話題や画題に従うというよりも、そろそろ挿絵が必要かというところで作中の様子を挿絵にしていくようである。これが、当時の絵入り版本のあり方なのであろう。他の絵入り版本の調査が必要であるが、底本の特徴、あるいは傾向として、このことは指摘しておくべきであろう。

付記

本稿は、平成28年度大妻女子大学戦略的個人研究費の採択課題「流布本『保元物語』『平治物語』の物語構造」(課題番号S2819)の成果報告の一部である。なお、現在、該書を底本とし略注等を付した『流布本 保元物語 平治物語』の公刊の準備を進めている。

引用文献他

[1]原水民樹. 『『保元物語』系統・伝本考』第2部 第4章3節. 和泉書院, 2016, p.467-p.479

[2]国立国会図書館デジタルコレクション「平治物語3巻」で確認。

<http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/2608774> (参照 2017-11-6)

Abstract

Bibliographic report on “Shin-ban Eiri Hougen-Monogatari Heiji-Monogatari”. In the “Hougen-Monogatari” and “Heiji-Monogatari” books (denpon), it is a denpon titled “popular edition” (rufubon) and although its value as a text cannot be said to be high, it is important to investigate the various ways in which it was appreciated because the rufubon were widely disseminated and had great influence on the arts. This paper provides bibliographic information on this primary material.

(受付日: 2017年11月8日, 受理日: 2017年11月24日)

小井土 守敏 (こいど もりとし)

現職: 大妻女子大学文学部日本文学科教授

筑波大学大学院博士課程文芸・言語研究科各国文学専攻 単位取得退学。

専門は日本中世文学。特に『平家物語』などの軍記文学。現在は、軍記諸作品の「流布本」の性格について研究を行っている。主な著書: 『二松學舎大学附属図書館蔵 奈良絵本 保元物語 平治物語』(新典社研究叢書 290)(単著, 新典社, 2016年), 『源平の時代を視る』(共編, 思文閣出版, 2014年)ほか。